

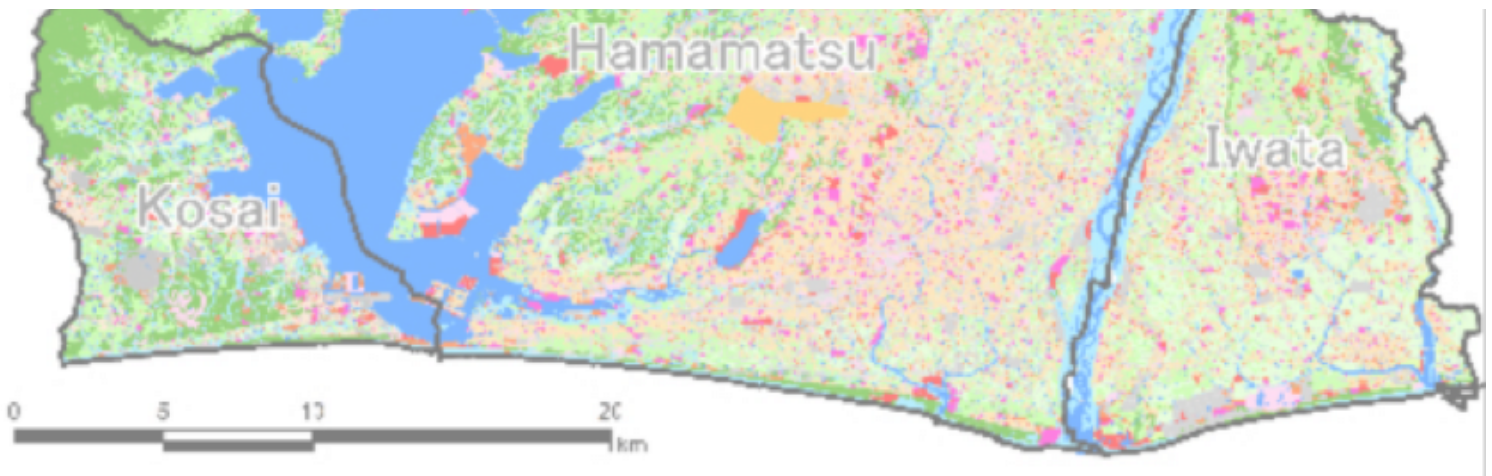
越境地域の防災減災と情報支援

日時:2018年2月10日13:30-17:30

場所:愛知大学豊橋キャンパス
〒441-8108 愛知県豊橋市町畑町1-1

趣旨

東海地域は南海トラフ地震の震源地の1つとして想定されている。この巨大災害リスクに備えるために、産官学民による防災減災、救助救援、事前復興を推進している。本セッションは行政地域や学問分野を超え、大学、行政、企業、住民が集まり、巨大災害リスクに備えるための教育、研究、実践の成果を共有し、行政、企業と大学が連携し、災害情報の充実とそれによる横断的支援の在り方を考える。



講演「防災減災の計画と行動」(13:30-15:00)

モデレーター 愛知大学地域政策学部 蔣湧 教授

- 南海トラフ巨大地震とは(慶應義塾大学 大木聖子准教授)
- 巨大地震に備える災害廃棄物処理計画(関西大学 北詰恵一教授)
- 廃棄物処理～平時から災害時へ(愛知大学 鄭智允准教授)

休憩

パネルディスカッション(15:30-17:30)

モデレーター 巖網林 慶應義塾大学教授

- 行政GISの進化と災害危機への展開
(名和裕司・株式会社ESRIジャパン, 渥美真弥・浜松市)
- 災害リスク評価(愛知大学地域政策学部蔣湧教授)
- 防災教育(静岡大学教育学部藤井基貴准教授)
- 災害リスク認知(慶應義塾大学大木聖子准教授)
- 災害廃棄物計画の実施へ(関西大学北詰恵一教授)
- 廃棄物処理の平時と災害時(愛知大学鄭智允准教授)